

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)
Mastery for Serviceの精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力量を育成すること。

(狙い内容)
基礎演習とチャペルアワーとの連携による自校学習メニューの構築。
教育学教育・教育者育成においてMastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会を組織化する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

基礎演習等での自校学習を充実させるとともに、毎日のチャペル・アワーとも連携して使命感喚起の機会を組織化する。
専任教員がMastery for Serviceの精神をよく理解し、各授業との関連性を示し、教育内容に反映させることができる。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	(1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催)。 (2)Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催	評価尺度	A:(1)学期内2回 (2)年2回 B:(1)学期内1回 (2)年1回 C:(1)学期内1回 (2)年0回 D:(1)学期内0回 (2)年0回	変更有無 有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	C	C	B	B	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績>	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績>		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> (1)学期内0回 (2)年0回					

【2016年度の進捗状況について】←

(1)学期内0回 (2)年0回 である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・**いいえ**

<上記で「いいえ」を選んだ場合>
①理由: 現在、計画段階のため、実施するまでにはいたっていない。
②今後必要な取組み: 実施を可能とするWGなどを立ち上げ、計画を立てることが必要である。

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・2016年度の進捗状況において、検討会や講演会等の開催回数に加えて、WGの状況も追記されることが望まれます。(A)
- ・該当するFD委員会や講演会、研究会の着実な実行が期待されます。(E)
- ・FD定例化等の実行が期待されます。(F)
- ・2016年度は検討会、研究会等の開催実績はなし、とのことですが、評価指標に表れてこないところで何らかの取組みが進められたのでしょうか。もし何らかの進捗があったのであれば積極的に記述いただくほうが良いと思います。(G)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと機転に富んだ教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。

(狙い内容)

新カリキュラムの全体としての理念を「学びの共同体」を通じて実現できるように、各授業でのアクティヴ・ラーニングの導入をすすめるため、「協同学習室」の利用率を高める。
教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化と参加率の向上。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

「教育学専門科目」と「リベラル・アーツ」を関連させた履修体系をつくり、学びの段階を設けて、広く深い教養と教育学的素養を身につけるシステムを再構築する。
「学びの共同体」としての実質を獲得するために、大学の授業実践に関する検討会を教員間でもつ。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	(1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上	評価尺度	A : (1)70%以上 (2)年2回, 70%以上 B : (1)60%以上70%未満 (2)年2回, 60%以上70%未満 C : (1)50%以上60%未満 (2)年1回, 50%以上60%未満 D : (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満	変更有無 有・無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	C	C	B	B	A	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績>	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績>		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満					

【2016年度の進捗状況について】 ←

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 協同学習室の利用、公開授業や研究会への参加の進展が期待されます。(F)
- ・ 2016年度は協同学習室の利用率向上や研究会等の実績はなし、とのことですが、評価指標に表れてこないところで何らかの取組みが進められたのでしょうか。もし何らかの進捗があったのであれば積極的に記述いただくほうが良いと思います。(G)